

PBAジャパンリージョナル2019/2020 アイキョーカップ・PBAドラゴン

9月22~29日 千葉・アイキョーホール

PBAリージョナル第3戦のドラゴンは神奈川の若き実力者・土方捷とJPBAの谷合貴志が優勝決定戦で激突し、221-211で制した土方がリージョナル初Vに輝いた



優勝 土方捷

アニマルパターン最高難度のコンディションを制して初V。「ドラゴンはインビテーションでも投げましたが、全く別の印象でした。最後はストライクスタートを決めたので、自分の投げ球ができました」

元ナショナルユースの 土方捷が初優勝!!



▲アイキョーカップ・ドラゴンファイナリスト。左から谷合、土方、畑、甘糟、水野耕祐、水野成祐

ク差で9・10フレ勝負へ。9フレは互いにストライク。10フレを先に投げる谷合がダブルとし、1マーク差。しかし2投目は厚く4番ピンが残り、9本スペアとして21で待つことになった。絶対優位のなか、土方の10フレ1投目は厚めに入るも9本カウント。これをきっちりとかバーして優勝が確定した。リージョナル1年目から出場する土方は、冷静沈着で試合中はボールカーフェイスを

買っていたが、この日初めて笑顔を見せた。

今年春に行われたDHCカップ・インビテーションでも採用されたドラゴン。地区予選3カ所とアイキョーホールで3シフトの予選が行われ、総勢150名余が参加した。初出場の選手も急増しており、オープンのため、男性優位は揺るがないが、多くの女性アスリートの挑戦も見られる。大会形式がスコア持ち越しなしのシステムなので、勝ち上がれば全員にチャンスがあるのも特色だ。

予選、準決勝1・2回戦を通過したのは、1位・谷合貴志（JPBA）、2位・土方捷（JBC）、3位・畑秀明（JBC）、4位・甘糟翔太（JPBA）、5位・水野耕祐（JPBA）、6位・水野成祐（JPBA）の6名。神奈川県（4名）と千葉県（2名）の2県による決勝シフトアウト対決となった。

決勝1回戦は4位から6位の対決で水野親子の対決も注目されたが、今大会213アベと絶好調の甘糟が混戦を断つ。2回戦はツーンハンダーの雄・畑が粘りを見せ、甘糟を下した。セミファイナルでは、2位で待ち受ける土方が登場した。今大会、一度もマイナスイメージがない安定した投球を見せる土方だが、畑を相手

RESULTS

④谷合 貴志 211
①土方 捷 194
③畑 秀明 196
②甘糟 翔太 238
⑤水野 耕祐 181
⑥水野 成祐 224

※数字は最終順位

<優勝決定戦>

土方 捷	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
谷合 貴志	9	17	20	40	70	100	130	156	174	182	202	221
谷合 貴志	9	17	20	40	70	100	130	156	174	182	202	221
土方 捷	17	37	57	77	107	134	153	162	191	211		

資料提供：全日本ボウリング協会

RESULTS

- 女子シングルス戦
優勝 吉田由美子 (埼玉)
準優勝 Olsson,Susanne (スウェーデン)
第3位 Tataryn,Sharon (カナダ)
第8位 鈴木英子 (福島)=1,223
第10位 柳川穂波 (三重)=1,204
第24位 太田千恵 (神奈川)=1,148
- 男子シングルス戦
優勝 Boersch,Lennie (アメリカ)
準優勝 Snow,Michael (カナダ)
第3位 Torgersen,Tore (ノルウェー)
第3位 Spiteri,Mark (マルタ)
第2位 谷昌樹 (熊本)=1,234
第52位 播本雄輔 (京都)=1,190
第67位 前田知一 (石川)=1,165
第73位 村上悦男 (神奈川)=1,151
- 男子ダブルス戦
優勝 アメリカ
準優勝 スウェーデン
第3位 スウェーデン
第3位 ノルウェー
第14位 日本 (谷・村上)=2,453
第21位 日本 (前田・播本)=2,394
- 女子ダブルス戦
優勝 アメリカ
準優勝 ドイツ
第3位 ドイツ
第3位 オーストラリア
第8位 日本 (太田・柳川)=2,336
第10位 日本 (鈴木・吉田)=2,318
- 女子4人チーム戦
優勝 アメリカ
準優勝 オーストラリア
第3位 ドイツ/スウェーデン
第6位 日本 (鈴木、太田、吉田、柳川)=4,610
- 男子4人チーム戦
優勝 アメリカ
準優勝 フィンランド
第3位 ドイツ/スウェーデン
第5位 日本 (村上、谷、前田、播本)=4,930
- 女子オールイベント
第1位 Hulsenberg,Leanne (アメリカ)=3,882
第2位 Baker,Jeanette (オーストラリア)=3,709
第3位 Olsson,Susanne (スウェーデン)=3,672
第6位 吉田由美子=3,626
第12位 鈴木英子=3,541
第13位 柳川穂波=3,508
第20位 太田千恵=3,436
- 男子オールイベント
第1位 Torgersen,Tore (ノルウェー)=4,065
第2位 Koivuniemi,Mika (フィンランド)=4,045
第3位 Boersch,Lennie (アメリカ)=3,947
第18位 谷昌樹=3,757
第29位 村上悦男=3,652
第44位 前田知一=3,589
第55位 播本雄輔=3,519
- 【女子マスターズ戦】
優勝 Olsson,Susanne (スウェーデン)
準優勝 Hulsenberg,Leanne (アメリカ)
第3位 Powers,Sharon (アメリカ)
第3位 Beckel,Martina (ドイツ)
2回戦 吉田由美子/2回戦 太田千恵
1回戦 鈴木英子/1回戦 柳川穂波
- 【男子マスターズ戦】
優勝 Leandersson,Tomas (スウェーデン)
準優勝 Koivuniemi,Mika (フィンランド)
第3位 Lehtonen,Kimmo (フィンランド)
第3位 Mohr,Ron (アメリカ)
1回戦 谷昌樹



世界シニア選手権大会 2019



吉田由美子が 日本勢初の金メダル獲得!

9月4~9日 アメリカ・ラスベガス

41の国と地域から260選手が出場し、世界シニア選手権大会が行われた。この大会は2年に1度開催。前回のドイツ大会では女子チーム戦の銅メダルが最高位だった日本は、シングルス戦で吉田由美子が悲願の金メダルを獲得した。



▲男子日本代表メンバー。(左から)村上、谷、前田、播本



▲女子日本代表メンバー(左から)吉田、柳川、太田、鈴木

予選後半3Gで225、236、224と打ち上げた吉田は、全体2位で決勝トーナメントに進出。Tataryn Sharonとのセミファイナルを185-158で勝ち上がり、予選トップのOlsson,Susanne (スウェーデン)とファイナルを戦った。「予選で4位に残らないと決勝に行けなかった。相手は前回のシングルス優勝者。胸を借りるつもりで挑んだ」と言う吉田は、緊張のなかにも落ち着いて投げることで、209-185でみごと勝利を収めた。

今回は大会を通じてオイルパターンはミディアムのTOKYO (42 Ft)。「(国内の)選考会のときにTOKYOで幅を感じなかった。ここというところに行かない」と印象を持っていたという。今大会に帯同した山下知且コーチからのアドバイスも心強く、ま

吉田はチーム戦の後半3Gで全体トップの224・67アベをマーク、オールイベント6位まで浮上したとあって、「ダブルス以降、自分にプレッシャーをかけてしまった。チーム戦の後半になって『こんなことしてる場合じゃない』と切り替えられた。最後は悪いところが全部出てしまったけど、金メダルは自信につながりました」と振り返った。



表紙 川崎由意
表紙撮影 岩崎潤 (P★LEAGUE 実行委員会)
表紙イラスト 太井潤一
デザイン 横浜るみ子・菊地弘泰・町田典之
スタッフライター 越智祐吾・バンデル塚田
藤村幸代・浅岡弦
四家秀治・正田晃也
編集部 高橋早苗

CONTENTS

2019 Vol.37 No.10

10

月号



Regular

- 55 パラノイア・パラダイス
- 67 川添奨太のアメリカ武者修行
- 78 スコアテーブル
- 83 飛び出せ! キッズボウラー
- 84 ボールラック [読者のページ]
- 86 今月の占い&編集後記
- 87 ボウラーズベンチ
- 92 リーグ探訪
- 94 記憶の宝箱 岩上太郎

Information

- 68 PBA
- 70 海外トピックス
- 72 JPB A情報
- 75 情報スクランブル
- 95 BRAND-NEW GOODS & GEAR

※本誌掲載の記事・写真・図版の無断転載を禁じます
©ベースボール・マガジン社

Feature

7 **スカイAカップ2019プロボウリングレディーズ新人戦
ドリスタカップ2019プロボウリング男子新人戦**
女子・川崎由意、男子・森元洋行が
ラストチャンスで初優勝



新連載

14 **プロボウラー×YouTubeチャンネル**
KobaTV~小林哲也&小林よしみ~

21 **ボールリアクションガイド2019秋**

96 **BPAA International Bowl Expo 2019**

Interview

13 **トム・スモールウッド**

P★TALK
47 **鶴井亜南**



Tournament

- 12 PBA **TOUR FINALS 2019**
- 15 JBC **JOCジュニアオリンピックカップ第43回全日本高校選手権大会**
- 18 JBC **第10回全日本小学生競技大会**
- 20 JBC **U22 5th Fukuoka Summer Cup 2019**
- 30 JBP **PBAジャパンリージョナル・PBAベア**
- 43 WB **世界選手権大会2019女子大会**

Lesson

32 **The Professional Form HYPER!**
北原泰輔

88 **BOWLER FILE/エースを狙え!**
前土佐澤

今月の技術選集

38 **5割の力で、流れを止めない投球を**

40 **歩数が増えるたび、体に優しい助走に**

46 **メンタルで勝つ方法**

50 **連写で見る世界の先端技術**

62 **アジャスティングアカデミー**

64 **検証 USBCドリル新ルール**

BOWLING SEMINAR

- 56 **レッスンQ&A** 有泉大祐
- 58 **グッズQ&A** 田中康男
- 60 **ルールQ&A** 丸山高史
- 61 **フィジカルQ&A** 野沢秀雄



稲葉竜太

小谷ひとみ

中谷彰宏

下地賀寿司

宮田哲郎

相田能孝



半優勝
白井康介

▲ベア2勝目を狙うも藤井の集中力の前に力尽きる。しかし、最終ゲームもノーミスでまとめ、「リージョナル巧者」ぶりを見せつけた

RESULTS

決勝

① 鈴木健也	203
② 新城一也	168
③ 吉田慎	188
④ 藤井信人	191
⑤ 白井康介	204
⑥ 坂本就馬	191
⑦ 清水弘子	189
⑧ 樋口慎一	194

優勝 藤井信人

※数字は最終順位

<優勝決定戦>

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
藤井信人	8	3	39	69	99	127	147	166	184	193	213
白井康介	9	9	39	67	87	107	127	147	167	186	205

文・写真/JBP



優勝 藤井信人

「昨年のベアで做れた白井にリベンジを果たして2連覇。「チーターが悔し過ぎる負け方だったので、スベアを集中して取ったのが勝因です」

JPBA・藤井信人が連覇達成!!

PBAリージョナル第2戦のベアはディフェンディングチャンピオンの藤井信人と一昨年の覇者・白井康介が優勝決定戦で激突し、213-205で制した藤井がベア2連覇を飾った

ベア(41フィート)は、第1戦と比べ、打ち合いが予想された。予選通過ラインは190アベとチーターよりも10ピン上がったが、いかにスベア確実に取るかが試合の分かれ道だ。今回は試合形式が変わり、最終日は40名が3Gを投げて、上位16名が決勝ラウンドに進出。JPBAの有カプロや、ナショナルチーム選手が早々と姿を消す、波乱の展開となり、ベスト8には、紅一点のPBA清水弘子をはじめ、JPBAが2名、アマチュアが5名残った。

ベスト4のセミファイナルは、今大会好調の両手投げ鈴木健也(JBC)と、安定した試合運びで勝ち上がったきた昨年の覇者・藤井信人(JPB A)、さらに前大会の雪辱に燃える白井康介(JBC)、唯一の左投げ初のセミファイナル進出の樋口慎一(NBF)の戦いとなった。

そのなかで決勝に勝ち上がったのは、藤井(202)と白井(196)。白井は一昨年のこの舞台で藤井を破ってリージョナル初制覇を飾っている。

因縁の対決となった優勝決定戦。藤井が1フレでいきなりスプリットオープン。しかし、2フレからフィフスですかさず挽回する。

一方の白井はダブルとスベアでノーミス。6フレまで藤井が2マーカー差でリードした。

白井は必死で追い掛けるが、次のダブルが来ない。敗色濃厚のなかで迎えた9フレ。藤井がまさかの②①⑧①⑩スプリットでオープン。が然、白井にチャンスが回ってきた。10フレ。パンチアウトで優勝の可能性も残された白井の1投目は厚く入り、無情にも4番ピンが残る。右手を振り、悔しさをにじませた。

一方の藤井は10フレで7番ピンを慎重にカバーし、堂々と2連覇を決めた。



▲セキユウカップ・ベアファイナリスト。左から藤井、鈴木、吉田慎、新城一也、坂本就馬、樋口、白井、清水

表紙/寺下智香、日置秀一、渡辺けあき
表紙撮影/石井愛子、幡原裕治
表紙イラスト/太井潤一
デザイン/横浜るみ子、菊地弘泰、町田典之
スタッフライター/越智祐吾、バンデル塚田
藤村幸代、浅岡弦
四家秀治、正田晃也
編集部/高橋早苗

CONTENTS

2019 Vol.37 No.9

9

月号



Regular

- 47 パラノイア・パラダイス
- 67 川添奨太のアメリカ武者修行
- 72 スコアテーブル
- 75 飛び出せ! キッズボウラー
- 76 ボールラック [読者のページ]
- 78 今月の占い & 編集後記
- 79 ボウラーズベンチ
- 84 リーグ探訪
- 86 記憶の宝箱 岩上太郎

Information

- 60 PBA
- 62 海外トピックス
- 64 JPB A情報
- 69 情報スクランブル
- 87 BRAND-NEW GOODS & GEAR

※本誌掲載の記事・写真・図版の無断転載を禁じます
©ベースボール・マガジン社

Feature

- 4 **中日杯2019東海オープントーナメント**
日置秀一が通算4勝目 渡辺けあき8年目で初V
- 8 **第35回六甲クイーンズオープン**
寺下智香、大会史上初の連覇で姫路麗のV20阻む
- 15 **社会人1年生 石本美来の1日に密着**
- 42 **ボウラーのための
ヨガ講座~中級編**



Interview

- 12 **ジェイコブ・バターフ**

P★TALK
小林あゆみ



Tournament

- 18 JBC 文部科学大臣杯 第43回全日本中学選手権大会
- 20 NBF 第47回全日本シニア選手権大会
- 21 ABBF 第46回全国実業団3人チーム選手権大会
- 22 JBP PBAジャパンリージョナル・PBAチーター
- 59 USBC 2019 U.S. Women's Open
- 68 ABF 第20回アジアスクール選手権大会

Lesson

- 24 **The Professional Form HYPER!**
水谷若菜
- 80 **BOWLER FILE/エースを狙え!**
山田成人



- 10 **連写で見る世界の先端技術**
- 30 **レーンとボールの相性が重要**
- 32 **時勢とともに学び、変える必要がある**
- 34 **実践ボール講座**
- 38 **メンタルで勝つ方法**
- 54 **アジャスティングアカデミー**
- 56 **検証 USBCドリル新ルール**

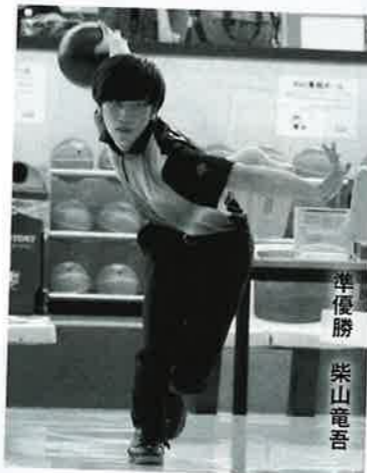
BOWLING SEMINAR

- 48 **レッスンQ&A** 有泉大祐
- 50 **グッズQ&A** 田中康男
- 52 **ルールQ&A** 丸山高史
- 53 **フィジカルQ&A** 野沢秀雄



▶魂を込めたスプリットカバーで優勝を決めた。「投げやすいラインを見つけた」と難コッティションをクリアし、ひと回り成長した姿を見せた

優勝
畑秀明



▶最後は畑のビッグプレーに敗れたが、藤井吉田などトッププレーヤーに競り勝ち、リージョナルのニュースター候補となる活躍だった

準優勝
柴山竜吾

RESULTS
(最終シューティング)

①畑 秀明	200	優勝
②森 岩 雄	162	
③吉 田 文 啓	173	
④鶴 見 亮 剛	171.7	
⑤柴 山 竜 吾	171.8	
⑥藤 井 信 人	170	

※数字は通過順位
<優勝決定戦>

柴 山 竜 吾	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
畑 秀 明	29	49	67	76	95	104	124	143	163	183
畑 秀 明	18	25	34	54	74	104	134	160	180	200

第1戦PBAチーター(33フィート)は、腕自慢の各選手が「マジ、ヤバイ」とつぶやくほど、難航不落を極めた。JPBAのトッププロ、川添奨太、藤井信人をはじめ、ナショナルメンバー、新設された地区予選を勝ち上がった選手ら180余名が参戦。百戦錬磨のトップボウラーをもってしても予選通過ラインは180アベ前後となり、いかにスベアを確実に取るかが明暗を分けた。

そのなかで、男子選手に交じり、女子の高坂麻衣(PBA)・入江菜々美(JBC)・飯田菜々(JPB A)が予選を通過したのは特筆ものだ。

優勝は、7月のアジアスクール選手権で金メダルを取ったばかりの畑秀明(JBC)。予選6ゲーム、準決勝1回戦3ゲーム、2回戦3ゲーム

ムを苦しみながらも、1位で決勝シュートアウトに勝ち残った。ベスト6が出そろったシュートアウトで、勢いに乗ったのが5位通過の柴山竜吾(JBC)だった。1回戦では、4位・鶴見亮剛(JBC)、6位・藤井を接戦の末に撃破。続く3位・吉田文啓(JPB A)、2位・森岩雄(JBC)を200超えて完勝する。

優勝決定戦は18歳・畑と19歳・柴山のフレッシユな対決。序盤は柴山がダブル・スベアで、2度オープンで出遅れた畑を2マークリード。しかし今年のチーターは微妙なアジャストミス許さない。柴山が4フレで②⑤のスペアをミスすると、6フレもスプリットでまたもオープン。この機を逃さないのが畑だ。6フレから9フレまでフォースを決め、10フレ2投目は③⑥⑦⑩の難スプリットを見事にカバー。大きな握り拳で優勝を確信すると、最後はきっちりストライクで締め、粘った柴山を200-193でかわした。



▲フジカップ・チーターファイナリスト。左から畑、森、吉田、鶴見、柴山、藤井(シュートアウト通過順)